

「伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録実現」推進フォーラム

世界遺産登録推進フォーラム

世界遺産登録を目指し、「伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録実現」推進フォーラムが8月20日、市中央公民館で開催され、参加者約100人が伊勢堂岱遺跡への理解を深めるとともに世界遺産登録に向け熱意を高めました。

市民の手で世界遺産に
気運を高めよう



▲今から約4000年前の時代と言われる伊勢堂岱遺跡

伊勢堂岱遺跡は、北秋田市小ヶ田集落南の標高40〜45m舌状台地の上に位置し、4つの環状列石を中心に、祭りや祈りに使われた土製品や道具、施設が発見されています。他に掘立柱建物跡、埋設土器、配石遺構、多くの土器や石器などが見つかっています。4千年前の縄文時代後期前半の大規模な祭祀の場と考えられ、全国的にも例がない重要な遺跡として平成13年1月に国の

史跡に指定されました。その後の平成21年に大湯環状列石とともにユネスコ世界文化遺産の暫定リストへ登録され、現在北海道、青森県、岩手県と同様の遺跡とセットで「北海道北東北を中心とした縄文遺跡群」として世界遺産登録運動を展開しています。

フォーラムは鷹巣地方史研究会（照内捷二会長）の主催で、正式登録に向け、市民の興味・関心を高め盛り上げようと開催されました。

開会にあたり、照内会長は「伊勢堂岱遺跡は全国的にも貴重ですばらしい遺跡と高く評価されています。岩手県平泉の遺産関係者は世界遺産登録実現には何よりも県民及び市民の意識や気運を高めることが大事と言っています。少しでも市民に伊勢堂岱遺跡を知って興味関心をもっていたきたい。伊勢堂岱遺跡は私たちの貴重な文化遺産、北秋田市民の共有財産として後々まで守り伝え、正式に世界遺産登録へ結びつくことができればと願い企画しました。希望をもって粘り強く運動を展開していきたい」などと主催者を代表しあいさつしました。

来賓として三澤仁教育長が「伊勢堂岱遺跡は平成27年度登録を目指して4道県と手を携えて進めています。何よりも大切な北秋田市民の関心が今少し低調で盛り上がり欠けるように感じます。地元北秋田市民の支援が是が非でも必要で、熱い思いがなければ登録に向けての動きも活発にならない。それぞれの立場から伊勢堂岱遺跡についてのご意見ご提言があると思いますが、貴重なもの

と受け止めて私たちも取り組んで行きたい」などとあいさつ。

フォーラムは、はじめに市教育委員会生涯学習課の榎本剛治主査が「世界遺産登録推進の現状」として基調報告を行い、

「4つの環状列石は他に例がない」、「多大な労力をかけてつくられた」、「マツリの道具が多くつくられた文化力」などと伊勢堂岱の価値や今後の予定などを説明しました。

続いて、「伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録を目指して」をテーマにした市民手で世界遺産に「をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストとして伊藤公夫・市商工会長、小塚嘉七・鷹巣地方史研究会副会長、佐藤喜美男・伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ代表、佐藤純子・秋田北鷹高校生徒会長、永井高道・鷹巣文化遺産保存会長の5人が伊勢堂岱遺跡に対してそれぞれの思いや考えを述べ、会場の参加者を交えて世界遺産登録へ向けての期待やボランティア活動など市民参加について意見が交わされました。

世界遺産とは、人類共通の遺産として、世界の国々が協力して未来まで守り伝えるべき文化遺産や自然遺産のことを言います。

4番目に登場したのは、ゲスト出演の昇風会・手踊り鈴木みつる社中（藤島智昭代表）の皆さんによる「飾山囃子と手踊り」。角館のお祭りの曳山運行の囃子と優雅な手踊りが披露され会場からは一段と大きな拍手が送られました。

5番目に登場したのは、福田獅子舞保存会（鈴木浩二会長）による「福田獅子舞」。獅子舞いは、日本海運によって、米代川流域にもたらされた奉納神楽を能代港町で文化2年頃、修業伝授したのが始まりとされています。「ささら」役に誘導され、目に見えない悪魔を退治し役目を終えて昇天する大獅子舞が物語的に披露されました。

最後に、綴子下町大太鼓保存会（藤島勝政会長）による「綴子下町獅子踊り」。大名出陣行列・獅子踊り・奴踊り・ヤツパレ等の一連の「大太鼓祭り行事」として約750年前から継承されています。この日は、露払い太夫の口上、棒使い（野次払い）、獅子踊り、奴踊りが上演されました。

市内外から訪れた満場の観衆は、それぞれの勇壮で優雅な郷土色豊かな各地区の芸能をたっぷり堪能していました。

郷土色豊かな民俗芸能

北秋田市内5団体と
仙北市から1団体が出演

第6回北秋田市民俗芸能大会が8月21日、市文化会館で開催され、市内外から詰め掛けた大勢の観衆が郷土色豊かな芸能の数々を楽しみました。

福田獅子舞

今泉駒踊り

阿仁からめ節

前山奴踊り

民俗芸能大会は、市内で演じられている芸能を一堂に集めて市民に公開し、民俗芸能への理解と関心を深め、保存・伝承につなげることなどを目的として始められ、今年で6回目となります。オープニングで登場したのは、今泉駒踊り郷土芸能保存会（篠内文雄会長）による「今泉駒踊り」。戦国時代の騎馬の様子を武芸化した踊りで、300年以上前に合川の八幡岱より伝えられたと云われています。当時、佐竹義宣公が来訪した際、旅の疲れを癒すため踊られ、その後も豊年満作を祈り農閑期やお盆に踊り継がれたようです。

2番目に登場したのは、阿仁からめ節踊り保存会（佐藤昭春会長）による「阿仁からめ節」。少なくとも300年ほど前から唄い継がれてきたと云われ、鉾山の坑道口前に掘り出され鉾（鉾石）を金槌で叩いて細かくし撰鉦する「鉾つぶし」が「からめ」と云われ、つらい労働の疲れを癒すための女工たちの作業唄として踊りとともに伝えられています。

3番目に登場したのは、前山郷土芸能保存会（小笠原忠夫会長）による「前山奴踊り」。大名行列に始まり獅子踊り、奴踊り、雑魚釣り舞で、今から約250年前江戸中期、先祖の供養、豊年満作と厄除けを祈願するため村社・雷皇神社に奉納したのがその起源と伝えられています。奴踊りの後の釣りの好きな兄弟のしぐさをこついに演じる「雑魚釣り舞」は、ユーモアたっぷりな演技を繰り広げました。

飾山囃子昇風会・手踊り鈴木みつる社中

綴子下町獅子踊り



▲5人のパネラーが遺跡への思いを述べる